

世田谷村日記

石山修武

まりだ。十八時世田谷妙高寺会館打合わせ。十九時世田谷村来客。

九月八日

五時過起床。家内に運転してもらい、富士山へ。聖徳寺現場で富士ヶ嶺造園のオヤジさんと会い、短い、アツという間の打合わせ。オヤジから松タケ、いただく。三町歩（九千坪）のオヤジの土地を見せてもらい、本栖湖ホテルでコーヒーの後、世田谷に戻る。十時十五分世田谷着。十二時二〇分大学。スケッチ。十三時三〇分から二十一時四〇分迄連続打合わせ。飯も食べなかった。

二十二時二〇分過京王線新宿。空腹である。太田博太郎「建築史の先達たち」読む。そもそも建築史学の草創期の事情を知りたいと思つて、友人にすすめられた本だ。面白い。

九月九日

朝、昨夜の読書の続き。日本建築史の創生は工部大学校辰野金吾がイギリスにヨーロッパ化「近代化を学びにおもむいた際に、バルジス師より、日本建築を問われ、答えに窮し、ロンドンでヨーロッパの建築を学ぶのも良いが、先ず母国の建築を知るべし、とさとされたのが、始まりだった。それを伊東忠太が辰野金吾から聞いた、というような事が発端であつたようだ。つまり、近代化の為にヨーロッパに西洋建築史一般を学ぶことの必然から、日本建築史の必然が生まれたという事だ。これは今に続いてもいる。

十時大学、配島工業、大工さん、板金屋さん打合わせ。十二時終了。十四時東武緑地、中川さん打合わせ。建築設計は雑事の固